
アイシテルカラ

yuris

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

アイシテルカラ

【Nコード】

N8571R

【作者名】

yuriss

【あらすじ】

ねえ、ねえ、愛してるの。私を見てよ。

ねえ、全部あなたが悪いのよ？

「君っていつも一人だよ。良かったら俺の話し相手になってくれないかな？」

いつも独りでいた私に手を差し伸べ、引っ張りあげてくれたのに。

「琴音はさ、笑ってた方が絶対可愛いって」

あなたがそう言うから、明るく振る舞ったのに。

私の世界は、あなたが全てだったというのに。

——でもね、許してあげる。だって私は世界で一番あなたを愛してるんだから。

「ねえ琴音。あの娘知らない？」

「あの娘って……彼女さん？ 昨日一緒に帰ってたじゃない」

「そうなんだけど。朝教室捜してもいなくて……もしかして、休みなのかな？」

あの娘は昨日からずっと寝てるみたいよ？ 昨日私に寝不足だって相談しに来たから、私がお手伝いしてあげただけ。

ああもう、そんな寂しそうな顔しないでよ。あなたには私がいるじゃない。

あの娘なんかいなくても、あなたには私がいればそれでいい。そうでしょ？

「……ごめん琴音、先生に俺早退しましたって言うって」

「え、ちよっと！」

すごい勢いで教室を飛び出していったあなたは、私にそう残していった。

馬鹿なヒト。どんなに走っても、あの娘はもうこの世にはいないというのに。

でもね？ 馬鹿で単純なあなただからこそ、私はこんなことするの。

だから早く無残になったあの娘を見て、
私に縋って、抱きついて。私の前で泣き叫んでちょうだい。

（後書き）

うつ…狂愛に挑戦してみたのですが、失敗です…。

非常に難しく、もうこの小説が無残なことに…。

ここまで読んでくださった皆様、本当にありがとうございました。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8571r/>

アイシテルカラ

2011年10月8日20時53分発行